

< 調査結果 >

福島第一原子力発電所3号機の使用済燃料プール（以下「SFP」という）については、10月15日に原子炉冷却材浄化系ろ過脱塩器ハッチ蓋の撤去作業を実施しました。

本日（10月16日）午前10時15分頃、水中カメラにて確認できた当該ハッチ蓋の下側に位置する燃料集合体4体のうち2体において、ハンドル部がわずかに変形していることを確認しました。

当該ハッチ蓋の撤去作業については、SFP内へガレキを落下させることなく慎重に実施したこと、および当該ハッチ蓋の撤去作業の前後においてモニタリングポスト指示値に有意な変動はないことから、今回の撤去作業による燃料破損の兆候はなく、周辺環境への影響もありません。

今後、燃料取り出しの検討過程において、ハンドル部の変形した燃料集合体の取り扱いについても検討してまいります。

調査箇所・水中カメラの映像

わかりやすいように黄色で表示してあります

